

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年10月1日

【評価実施概要】

事業所番号	2370700573		
法人名	株式会社パシフィック		
事業所名	グループホーム まりん		
所在地	名古屋市昭和区恵方町1-35 パックス恵方3・4階 (電話)052-842-7281		
評価機関名	福祉総合調査研究機関 株式会社ヤトウ		
所在地	名古屋市中区金山一丁目8番20号 シャローナビル7A		
訪問調査日	平成19年8月22日	評価確定日	平成19年9月29日

【情報提供票より】(平成19年8月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成	15年1月15日
ユニット数	1ユニット	利用定員数計 7人
職員数	7人	常勤 4人, 非常勤 3人, 常勤換算 4人

(2) 建物概要

建物構造	RC	造り
	4階建ての	3~4階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000~51,000円	その他の経費(月額)	33,000円	
敷金	有(円)	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(100,000円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300円	昼食	450円
	夕食	400円	おやつ	150円
	または1日当たり		円	

(4) 利用者の概要(平成19年8月1日現在)

利用者人数	6名	男性	2名	女性	4名	
要介護1	0名	要介護2	4名			
要介護3	1名	要介護4	0名			
要介護5	1名	要支援2	0名			
年齢	平均	89歳	最低	70歳	最高	95歳
協力医療機関名	おぎのクリニック・ひかり歯科					

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住宅地の中に位置しており、ホームは開所して4年半が経過する。入居者の平均年齢、介護度が高い構成の中、ハード面での改善は難しくてもソフト面でカバーしていこうと取り組んでいる。その人らしく生活してもらえるよう職員は入居者とのコミュニケーションを大切にしている。「生活の場」であることを意識し、本人のできることはしてもらうよう支援している。運営推進会議がきっかけとなり、地域との関わりを意識し取り組み始めた。今後は地域密着型サービスの役割を考えながらの働きかけを期待したい。

【重点項目への取組状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は外部評価を自分達が気づかない部分を提示してくれる良いチャンスと考えている。前回指摘された居室の表札や薬品保管については、会議で職員と話しあい改善した。アセスメントの記録化については、検討中である。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>自己評価は全職員が取り組んだが、書き方が難しく理解できない職員もいた。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>3か月に1度、系列ホームと合同で開催している。メンバーは町内会長、民生委員、管理者、系列ホームの管理者、地域住人、入居者家族である。ホームが地域に浸透するよう、色々な方法が検討されている。会議で出された、ホーム行事への招待やチラシの配布については実現に向け進行中である。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>ホームの行事に家族も招待しており、家族会を兼ねている。会で意見が出ることはないが、訪問時や電話で直接意見をもらっている。外部への表出先としては、重要事項説明書に市及び国保連が記載されている。今後、運営推進会議も受け皿になるよう計画である。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>町内会に加入し、自発的に地域の神社の清掃を行っている。町内の盆踊りや敬老会にも参加している。また、小・中学校の運動会や地域の高校の文化祭に毎年出かけている。回覧板により廃品回収など地域の情報も知らされる。地域の方にグループホームを知ってもらおうと、現在チラシを作成している。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<p>. 理念に基づく運営</p> <p>1. 理念と共有</p>					
1	1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>法人の理念として「一人一人に合ったその人らしい生活を営んでいただく」という方針の基、少人数で家族のような雰囲気の中で、個人の尊厳を守り、穏やかに過ごしてもらうことで認知症の進行を遅らせ、本人の能力を最大限に発揮できるよう見守りや支援に努めている。</p>		<p>地域との関わりについては運営推進会議を通して意識をするようになった。今後、理念の見直しも検討していることから地域密着型サービスとしての目的を反映した事業所独自の理念の作成に期待したい。</p>
2	2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>独居の入居者が多く、移行時には生活が激変するが、それでも維持可能な部分は維持するよう理念に沿って一人ひとりに合わせたケアを職員は心がけている。カンファレンス時に例をあげながら理念に立ち戻り、考えるようにしている。</p>		
<p>2. 地域との支えあい</p>					
3	5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>町内会に加入し、自発的に地域の神社の清掃を行っている。町内の盆踊りや敬老会にも参加している。また、小・中学校の運動会や地域の高校の文化祭に毎年出かけている。回覧板により廃品回収など地域の情報も知らされる。地域の方にグループホームを知ってもらおうと、現在チラシを作成している。</p>		
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>					
4	7	<p>評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>管理者は外部評価を自分達が気づかない部分を提示してくれる良いチャンスと考えている。前回指摘された居室の表札や薬品保管については、会議で職員と話しあい改善した。アセスメントの記録化については、検討中である。自己評価は全職員が取り組んだが、書き方が難しく理解できない職員もいた。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	3カ月に1度、系列ホームと合同で開催している。メンバーは町内会長、民生委員、管理者、系列ホームの管理者、地域住人、入居者家族である。ホームが地域に浸透するよう、色々な方法が検討されている。会議で出された、ホーム行事への招待やチラシの配布については実現に向け進行中である。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	保護系の担当者と頻りに連絡を取り合っている。入居前の状況、医療情報など多くの情報を提供してもらっている。ホームからも状況の報告をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	「まりんだより」と共に職員が書いた入居者の様子や状態についての手紙を毎月家族に送付している。来訪時には、その都度、入居者の状況を伝えている。来訪できない家族には、電話で近況を伝えている。七夕会やバーベキュー、クリスマス会などホームの行事には、家族にも案内している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの行事に家族も招待しており、家族会を兼ねている。会で意見が出ることはないが、訪問時や電話で直接意見をもらっている。外部への表出先としては、重要事項説明書に市及び国保連が記載されている。今後、運営推進会議も受け皿になるよう計画である。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	近隣の系列ホーム開設に伴い職員が異動したことはあるが、ほとんど法人内の異動はない。異動は限定的で残った職員の方が多かったため、入居者へのダメージはなかった。ホーム開設時からいる職員もあり、正職員の離職者はいない。新しい職員には馴染みの職員がフォローしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5.人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営規程上、採用時は3カ月以内に実地研修を、継続研修は年1回と規程されている。外部研修については、職員に案内し、個人で受講している。職員のレベルに合わせて管理者が推薦することもある。研修資料は、コピーし会議で職員に配布している。		職員のレベルアップ支援策として、外部研修は個人負担ではなく、ホームで負担することが望まれる。また、外部研修の記録を保管されることを期待したい。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	名古屋市グループホーム協議会に加盟している。管理者や主任が行ける時に研修に参加している。運営推進会議の内容や進行方法などが話題にあがり、各ホーム共通の悩みであり、会議の意義を地域に浸透させる足がかりとして参考になった。		
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1.相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	見学会、体験宿泊はいつでも受け入れ可能である。「グループホームが初めてで本人が馴染めるかどうか試させて欲しい」という体験入居も過去にあった。入居前には本人を把握するため、住居や入院先を訪問している。場合によっては職員が引越を手伝うこともある。		
2.新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者には、洗濯物干しやたたみ、掃除、食器拭き等できることを担当してもらっている。入居者からしきたりや行儀について教えてもらうこともある。職員が腰を屈めると、入居者が黙って指圧してくれたり、調理していると側にきて団扇で扇いでくれたりする。疲れた時には労わってもらい、職員は心を癒されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>お盆にお墓参りや以前住んでいた家に行きたいという希望が入居者から出ると、可能な限り支援している。夕方になると亡くなった妻を捜しに徘徊する方がおり、それぞれと職員は前兆を見逃さず一緒に探しに出かけたりしてる。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>カンファレンスの前に、管理者が本人に要望を聞いている。入居者に身寄りが無かったり、親族関係が希薄な場合、日常生活の観察から職員全体で話し合い、必要であれば介護計画の変更を検討している。残存能力の維持を第1に介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>管理者、入居者の担当職員、その日の職員で月1回ケアカンファレンスを開催し話し合っている。計画の期間、変化に応じて見直しを行っている。状態の変化によって介護計画を中止し、観察の上再度介護計画をたてたこともある。家族には、来てもらい説明したり、来れない場合は郵送や電話で伝えている。</p>		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	<p>事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>入居前に体験利用することが可能である。医療連携体制加算は現在受けていないが、今後受ける予定である。かかりつけ医に受診する場合は、原則家族に送迎をお願いしている。困難な場合はホームで対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後に同意の上、かかりつけ医をホームの協力医に変更してもらっている。協力医の他科に受診する場合は、原則家族に付き添いをお願いしている。協力医の往診が週1回あり、医師の判断により検査等も実施している。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	過去に終末期の経験をしている。その際には家族、医師、職員と話し合い本人の希望を尊重した。今後は、医療連携体制を整えていく予定であり、早い段階から本人や家族、医師、職員で話し合っていきたいと考えている。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	排泄介助を行う時、トイレが狭いことからドアを開けたまま介助することがあったが、職員は意識して閉めるようにしている。守秘義務については契約書の中に記されており、職員は入職時に署名している。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしている。起床や就寝時間、入浴時間は自由であり、入居者は自分のペースで過ごしている。入居者から外出の希望がでた場合は可能な限り対応している。難しい場合は本人が納得できるように説明している。現在、毎日晩酌される人はいないが、週1回晩酌の機会を検討している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は入居者に希望を聞きながら、毎日立てている。調理を職員と一緒にいる入居者もいるが、歩行の難しい人は茶碗を拭いたりする片付けと一緒にしている。誕生日には入居者に希望を聞き、献立に反映している。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日可能であり、本人の希望で朝湯に入る人もいる。浴槽は家庭と同じものであり、介護度の高い方には職員が2人で介助にあたっている。入浴を楽しんでもらえるよう沐浴剤も使っている。入浴のことを介護計画に反映している入居者もいる。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	七夕会、クリスマス会、バーベキュー、いちご狩り等の行事の際には、系列のグループホームと合同で行うことが多い。日常の中で入居者の得意なことや好きなことを活かしてもらえるよう職員が本人の様子を見ながら声をかけている。誕生日に、入居者の希望で職員と2人だけで寿司屋にでかけたこともある。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、午前・午後に散歩にでかけるようにしている。外出する際には車椅子を使用する人がほとんどなので、全員と一緒に散歩はできないが時間帯をわけて支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	テナントビルの中にあり、他の会社と玄関を共有しており、先方の要望もあり玄関を施錠していることが多い。鍵をかけることの弊害は理解しており、日常的に散歩にでかけたりしてその解消に努めている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	職員のみで避難経路の確認は行ったが、入居者を交えての訓練の実施には至っていない。災害時の備蓄品の準備はされていない。今後、できる限り入居者も交えての訓練を実施していきたいと考えている。		色々な場面を想定した訓練やホーム内にも災害に備えての食料や備品を確保されるよう期待したい。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立は毎日たてており、主任が献立の見直しを実施している。特別食の人は、別にメニュー表を作成し摂取量を記録している。水分補給は食事の際と、10時、おやつ、入浴後、散歩後等に行っている。吸収がよいように梅干しを入れたり、スポーツ飲料にする等工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テナントビルの中にあり、他の会社と玄関を共有している。建物の構造上、エレベーターは無く、急勾配の階段があり昇降機が設置されている。直射日光が入らないようカーテンで調節している。十分な広さがある間取りではないが、その分職員がソフト面でカバーするように取り組んでいる。		光についてはカーテンで調節しているが、午前中であればレースのカーテンのみの対応で十分と考えられる。また、廊下の明るさについても一度検討されたい。
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者の馴染みの物を持ってきてもらっており、テレビや仏壇、家族の写真等が置かれていた。生活保護の方は、本人が持っていきたいという意思表示があれば可能であるが、ない場合は入居前に整理されることが多い。		

 は、重点項目。

WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。